

<今回>317回目 2022年6月26(金)15時～18時 を延期、11月7日(月)14時から17時まで
読書は10冊目「失われた九州王朝」再読 p396、三 九州年号の発掘 より

<前回>316回目(22-4-8)出席者 7名

資料(22-04-08-1)前回のまとめ(清水)

A 報告 清水の体調不良で、この会を少しの間、中断させていただくことにした。5月の2回分に、様子を見て6月、7月、8月と長くなった。残りの皆様で第5章九州王朝の領域と消滅から読み続けることにしたと聞きました。

B 資料はないが午前中 WEB の古代史の会議があり関西の服部氏の話がありました。「天王寺と四天王寺について」です。記憶を頼りに紹介します。現在大阪浪速区の四天王寺は聖徳太子ゆかりのお寺として信仰を集めていますが、場所や名前や伝承にも異論があります。発表骨子は

- ① 仏教教義上の解釈を詳しく解説して、天王寺とは第一人者の長寿を祈る場所、四天王寺は仏教上、釈迦、如来、菩薩等を四方から守る門番のような役目の存在であった毘沙門天以下の四天王が、教義が変遷して尊崇を受けることになった。
- ② 四天王寺も名前は平安後期や鎌倉期の古文書に天王寺という名前で登場している例もあるので、お寺自体も両方の名前を混合して使用していたのは確実である。
- ③ これからが彼の論で、隋書倭国伝の水陸3千里は長里で、中国使は大阪の難波の海岸に到着したと解釈して九州勢力の天子が東進していると解釈した。そこで天子の長寿を祈る天王寺が建てられた。場所は不明だが、荒墓と言われる現在地に移転したかもしれない。近畿天皇家に権力が移行して移転したかもしれない。などと持論を展開された。(資料はweb古代史の資料室にある。管理者和田氏)

高山氏から前回の議論の続きで、韓智興が九州倭国の人間という証拠がない以上、唐で喧嘩した二勢力は近畿の親新羅派、親百済派の内部抗争が唐の地でも展開されたとみる方が合理的と言われた。

C 読書 p394 年代の誤差 より

- 1) 別在した二王朝を天皇王朝の大義名分論のもとに一元化して記述する、この手法から生じた錯綜した痕跡は「日本書紀」中各所に出現している。
- 2) 百済の遺臣福信が勝利した証として捕虜にした唐人を列島の主に送ってきた。年月順に日本書紀により整理してみる。書紀の編者も「故、今存きて注す。其れ決めよ」と言っている。
 - ① 斉明6年(660年)唐俘を獻る。
 - ② 斉明7年(661年)11月日本世記に曰く、唐俘続守言等筑紫に至る
 - ③ 斉明7年(661年)或本に曰く、獻れる唐俘106口を近江の墾田に居らしむ
 - ④ 天智2年(662年)2月唐俘続守言等を上送する

①と③は集団で直接送られてきた。②と④は先ず九州王朝の地に送られ、1年3か月経って天皇家に送られてきた上級官人である。と2王朝の並立を仮定すると明晰になる。

次回予定は清水の体調不良で高山氏の呼びかけで8月8日まで中断。予約表に従い、清水抜きで実施とした。